

To You

広報誌 Vol. 1
～東熊 Days～



CONTENTS

- ★ 院長挨拶
- ★ 皮膚科紹介
- ★ リハビリテーション科紹介
- ★ 新型コロナウイルス診療総括
- ★ 病棟紹介
- ★ 栄養科たより



理念

私たちは、患者さんの為のまごころの医療サービスを行います。
 私たちは、地域のみなさんから信頼される病院づくりに努めます。
 私たちは、常に新しく、良質な医療の提供ができるように心がけます。
 私たちは、みなさんの健康の増進、疾病予防のお役に立てるよう努力して参ります。



医療法人 永田会
東熊本第二病院

栄養科たより

栄養科では管理栄養士2名、給食委託スタッフ11名の計13名で、入院・在宅部門の食事を1日あたり約250食提供しています。

一人一人の入居者・利用者・患者さんに応じながら、個別の食事内容を医師・看護師・言語聴覚士など多職種で検討し、栄養管理を行っております。

「食」は楽しみや団らんの中でもあります。治療や状況に応じて様々な制限がある中で、食を通して少しでも楽しさを感じてもらえるようにしていきたいと考えています。

入院・在宅部門に担当の管理栄養士がおりますので、日々の食事に関する事でご不明な点などございましたら、お声かけ頂けたらと思います。



秋のイベント食



職員募集

当院で一緒に働きませんか？

看護師・介護士募集しています。アットホームで働きやすい職場です。まずはホームページをご覧ください。お気軽にご連絡下さい。
担当：事務部 吉村まで

外来担当医 一覧表

科目	時間帯	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
内科	午前	尾崎	永田(壮)	馬場	馬場	永田(晃)	担当医
	午後	永田(晃)	椎原	尾崎	椎原	永田(壮)	休診
皮膚科	午前	佐藤	休診	佐藤	佐藤	佐藤	休診
	午後	佐藤	休診	佐藤	佐藤	休診	休診
整形	午前	休診	休診	知花	休診	休診	休診

受付時間 / 午前 8:30～11:30 午後 13:00～16:30

医療法人永田会
東熊本第二病院
〒869-1107 菊陽町大字辛川1923-1
TEL:096-232-3939



関連事業

- ・居宅介護支援事業所「在宅総合支援センター」
- ・訪問介護事業所「トラスティホームげんき」
- ・通所リハビリセンター「げんきの郷」
- ・グループホーム「げんきの家」
- ・住宅型有料老人ホーム「エイジングホームげんき」
- ・訪問看護ステーション「トラスティホームげんき」(東熊本病院 跡地)
- ・居宅介護支援事業所「トラスティホームげんき」(東熊本病院 跡地)



皮膚科紹介

青春のシンボル、にきび。若者の悩みの種です。最近ではマスク生活のせいで全年代の方が来院されます。テレビコマーシャルを見て、あるいは皮膚科以外の他科で治療している人が多いようです。当皮膚科では医学的根拠に基づいた治療を行います。併せてスキンケア、洗顔石鹸の選び方などを指導していますので、気になる方は一度受診されてください。



皮膚科:佐藤 敬次



病棟紹介

1階病棟について

1階病棟は、医療療養病床51床の病床数を運用しております。慢性期の治療を主体とした病床であるため「患者ケア」に重点を置き「思いやりの心」で接し、「笑顔とやさしさ」をモットーに日々の看護・介護業務に励んでおります。患者さんに向き合う時間を大切に、患者さんごとに合わせたケアを考え、質の向上を図りたいと考えています。



2階病棟について

2階病棟は、地域包括ケア病床と一般病床で運用しております。入院時から退院まで安心して入院生活を送れるように多職種と連携をとりながらチームで在宅復帰に向け取り組んでおります。また、患者さんやご家族とのコミュニケーションを密に図りながら信頼関係を大切にしています。

リハビリテーション科紹介



リハビリテーション科では、一般病床・地域包括病床・医療療養病床それぞれの特徴に合わせて、リハビリ開始から退院までがスムーズに運ぶよう、医師を中心に多職種と協力し、より良いチームアプローチを目指しています。

主に脳血管疾患・運動器疾患・呼吸器疾患・廃用症候群・摂食嚥下障害に対するリハビリテーションを、患者様に寄り添いながら手厚く行っており、少しでも患者様の在宅復帰等に向けお役に立てればと、スタッフ一同日々リハビリ業務を行っております。



院長挨拶

当院は益城町の東熊本病院を本院とし、その分院として、2002年12月1日に菊陽町に開院、御陰様で現在21年目に入っています。当院は多数の地域の方々に利用して頂ける病院を目指し、救急医療、急性期医療、回復期リハビリ、慢性期医療に積極的に取り組んでおります。当院は一般病棟、地域包括ケア病棟、医療療養病棟、コロナ病棟と4つの病棟を有し、様々な患者様の入院が可能です。

今回、病院の20周年を記念して、人口が増加し日本一高齢化率が低く、そして世界の半導体メーカーTSMCまでやってくる今日本で一番勢いのある、この菊陽町において、その地域医療の一翼を担うべく、今後より一層努力し職員一同研鑽を積んでいく所存でございます。そのためには、まず当院の事を医療関係者だけではなく広く住民の皆様知って頂きたいと広報委員会を立ち上げ、今回この様な広報誌を作成させて頂く運びとなりました。医療法人永田会のモットーは、永田理事長の母校東京慈恵医科大学の建学の精神である「病気を診ずして病人を診よ」です。誤解を招かない様に患者様たちには「病気が当然ちゃんと言いますし、あなたも大切にきちんと診させて頂きますよ」と説明しております。

そして今後、必ずやつてくる2040年問題に対処するべく厚生労働省の策定した地域医療構想に即し近隣の他の医療機関との役割分担、連携も円滑に行えるよう職員一丸となり日々前進する所存です。様々な値上げも多く、世界中で戦争や紛争が絶えず、またコロナ禍から抜け出せない、不安定なこの時代だからこそ、我々は菊陽町、益城町、その近隣の住民の皆様とともに手を携えながら、ぬくもりのある医療を提供してまいりたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻、そしてご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

医療法人 永田会 東熊本第二病院 院長 馬場 太果志

東熊本第二病院新型コロナウイルス診療総括

① 発熱外来

当院では令和2年より発熱外来を開始し、令和2年度は48名、令和3年度は71名、令和4年度は461名の合計580名の患者さんの診療をおこないました。今後も状況を判断しながら、発熱外来を継続する方針です。

② 新型コロナ病床

当院では、二〇二〇年1月15日に新型コロナウイルス感染症（以後COVID19）が国内で報告されて以降、二〇二〇年4月より熊本県内で初めてのアフターコロナの受け入れ病院としてCOVID19の診療に携わるようになりました。

しかしながら、COVID19の世界的なパンデミックが遷延し、国内でも爆発的な感染者数の増加が見られたことから、二〇二二年9月1日より新型コロナウイルス病床を4床で運用を開始しました。当時は新型コロナウイルス感染症の第5波でした。第5波では令和3年9月1日～9月30日で計7名の入院があった以降、第6波を含む（令和4年1月～5月）では48名、第7波を含む（令和4年6月～11月）では39名、第8波（令和4年12月～令和5年3月）では58名の入院診療を行い、計152名の新型コロナウイルス感染症患者について診療を行いました。

令和5年9月30日までは、個室1部屋（1名収容）、大部屋1部屋（最大3名収容）を新型コロナウイルス病床として運用を継続する予定です。また、医療療養病床に大部屋2つと地域包括ケア病床の大部屋1つにも陰圧器を設置することにより、新型コロナウイルスだけでなく、他の感染性疾患にも柔軟に対応できるようになりました。地域住民の皆様が安心して暮らせるよう準備を行っています。

医療法人 永田会 東熊本第二病院 副院長 永田 晃平